

## 西原の方言

—“アムラー”をご存じ?—

今回の方言調査では運玉森の麓にある集落“安室”を訪ねました。

お話しをうかがったのは、区長の与那城長助さん、金城澄さん、与那城ツルさん、与那城雪さん、宮平盛繁さん、与那城盛弘さんです。

—安室は方言でなんといいますか?—

宮平さん：アムルという。



△和やかな雰囲気の中、進められる方言調査のようす

雪さん：チユヌシマカラヤ、アムル トウバル ティーチト ウウムトンドーヤー（他の部落の人からは安室と桃原は一つと思っている）。トウバルとは違うよー、言葉も違っているよ。

長助さん：トウバラっていいよったサー、トウバラ、アムラーって（笑い）。

安室と桃原の二つの集落は位置的にも隣接しているため、昔から「アムル トウバル シマドウナイ」といって二つの名前が連称されることが多かったようです。でも、アムラーと呼ばれるいたなんて新鮮な驚き（本当? 思わずフツ）。みなさん、ご存じでしたか?

—安室には昔からの言い伝えやむかし話がありますか?—  
長助さん：ありますよー、運玉グマイしていたとか。

宮平さん：運玉グマイシェー、ムナナラティ（運玉森にこもって芝居や踊りの練習をして）。財産投じてでも、村芝居をやるために運玉というところに入ってそこで色が白くなるまでもう、踊りもやつてから。

長助さん：ウマリカーヌいい伝えヤンター（ここのいい伝えなんだ）。また、安室の学事奨励会でクバガサグワー（クバ笠）もらったというからね。

雪さん：あい、クバガサグワーヤ、毎年。  
ツルさん：マギー クバガサヤタンドー（大きなクバ笠だったよー）、マギーよ。  
長助さん：今は図書券だけだね、昔はクバガサよ。

「西原町史」の民俗編には「他部落の人々から「アムルンチョー、アシビトウンマニ、

ウチフリトーン」（安室の人たちは村芝居や競馬に夢中になりすぎる）と評されたという。」との記述があります。部落の学事奨励会で子供たちに帳面や鉛筆などの学用品ではなく、クバ笠が贈られていたなんて、やはり安室の人々が芸能を好んだあらわれなのでしょうか。

調査では、各集落の人々の気質などをあらわすことばを拾い出すことができ、各集落の特徴がみえてきたりします。

両親ともに安室出身、生まれも育ちも安室という澄さんは、生粋のアムラー。区長の長助さんいわく「オバー（澄さん）ヤ、アムルグチ一番よ。もうアムル独特の言葉はなくなるんですよ：なんとか残したいと思っいますけれど。」このようにおっしゃる方々の言葉はげみにして、西原の各集落の方言をひとつでも多く後の世代に残せるよう、事務局ががんばります。さーて、今日も調査にいつてきまーす。